

巻頭言

慶應義塾大学商学部小野晃典研究会
第21期ゼミ長 國吉慶祐

巻頭言を執筆するにあたり、2年前に自分が執筆した入ゼミ選考のESを見返してみました。

「マーケティングを学びたい」、「オープンゼミで見た、カッコいい先輩みたいになりたい。」、「このゼミで、圧倒的に成長したい。」、そして「同じ志を持った同期と、切磋琢磨し合いたい。」

私が小野ゼミを志望した理由は、大きく分けてこの4つでした。小野ゼミへの志望理由はそれぞれ違うかもしれませんが、私たち第21期生の全員が、小野ゼミにおける活動を貴重な成長の機会と捉え、やる気と期待に満ち溢れて入会したことを、今でも覚えています。

「同じ波はもう来ない 逃がしたくない」

これは、桑田佳祐の楽曲「波乗りジョニー」の一節です。振り返ると、私たち第21期生は、貴重なチャンスを逃すまいと、さまざまな経験を重ねてきました。

インカレディベート大会では、小野先生や大学院生、第20期生の先輩方の心配する声をよそに、2チームで出場し、両チームともに勝利を収めました。一人ひとりの活躍の場が増えたことによって、資料作成能力、プレゼン能力、および論理思考力をさらに磨くことができました。

三田祭論文執筆活動では、多くの貴重な発表機会を得ました。日本マーケティング学会では、第1回U24ポスターセッションにてパネル発表を行い、栄誉あるU24ベストポスター賞を獲得しました。KSMSでは、韓国にて、英語で口頭発表を行い、海外の著名な学者の方々にお褒めの言葉を頂きました。パネル発表は、限られた枠内に要点をまとめて平易にする能力や、聴衆の目を惹くデザインを考案する能力を、英語での口頭発表は、文化の違う方々にも私たちの研究を魅力的に伝える能力を培いました。

上記以外にも、私たちが経験してきた貴重な体験の数々は、枚挙にいとまがありません。発表の機会を通じて得たものだけではなく、準備の段階で培った能力も数多くあります。私たち第21期生は、入会した当時よりも一皮も二皮も剥け、まるで別人のように成長したと言っても過言ではありません。こんなに恵まれた環境が他にあるでしょうか。卒業を目前に控えた今になって、小野ゼミの素晴らしさを噛み締めています。

この『慶應マーケティング論究』第21巻には、小野ゼミでの活動を通じて培った能力を最大限発揮して執筆した、7篇の卒業論文をはじめ、同期で力を合わせ、世の中にあるまだ見ぬ問いを自ら見つけ、それを解決していく術を初めて学んだ三田祭論文、発想力とマーケティング理論を組み合わせて完成させたビジネスコンペティションの投稿案、RTD コーヒー市場を題材に、新製品開発の際のフレームワークを学ぶことができるよう、後輩たちのために作成したケースメソッドの解題資料など、私たち第21期生が三田キャンパスでの2年間の全てを捧げて作り上げた完成物の全てが収められています。

本論文集が完成に至るまでには、非常に多くの方々の支えがありました。末筆ながら、この場をお借りして、私たちを支えてくださった方々に、感謝の言葉を送ります。

まず、同研究会第 22 期生のみんな。我が強く、こだわりの強い私たちは、みんなのことを多々振り回し、悩ませてしまったことも多かったかと思います。それでも、そんな私たちについてきてくれたみんなは、自慢の後輩です。いつまでもかっこいい先輩でいるつもりなので、これからも背中を追っかけてきてくださいね。本当にありがとう。

次に、同研究会第 20 期生の皆さん。皆さんに憧れて小野ゼミへ入会した私たちは、皆さんに追いつくことができましたでしょうか。後輩を指導し始めるようになって、改めて皆さんの偉大さに気づくことになりました。卒業後も、私たちを気にかけてくださる懐の大きさに、甘えてしまうことも多いですが、これからも可愛がってくださると嬉しいです。本当にありがとうございました。

さらに、大学院生としてご指導くださった王 珏さん（第 18 期大学院生）、北澤涼平さん（第 16 期 OB・第 20 期大学院生）、および 兪 嘉寧さん（第 22 期大学院生）。大学院生の皆様が、私たちに寄り添い、熱心にご指導くださったおかげで、本論文集や、三田祭論文を完成させることができました。論理的で示唆に富んだ鋭い指摘に、2 年間、何度も助けられました。本当にありがとうございました。

そして、第 21 期生のご家族の皆様。小野ゼミに入会してからの 2 年間、皆様には、多くのご心配・ご迷惑をおかけしてしまいました。論文執筆作業に難航し、どれだけ帰りが遅くなっても温かい料理を作って待ってくださった皆様の存在があったからこそ、私たちはゼミを通して成長し、本論文集を完成させることができました。本当にありがとうございました。

最後に、慶應義塾大学商学部教授の小野晃典先生。この 2 年間、未熟すぎる私たちを指導し続けてくださった先生には、本当に感謝しかありません。要領を得ず、頑固で指摘を聞き入れないこともある、問題児だらけの 21 期生に対して、決して見放すことなく、愛に溢れたご指導をし続けてくださいました。私たち第 21 期生は、第 22 期生の募集に際して、“24 Hour Seminar” をコンセプトに入ゼミ活動を行ってききましたが、小野先生は、文字通り四六時中相談に乗ってくださいました。深夜 0 時を回ってからの相談や、明朝 5 時からの相談に応じ、ご指導していただいたこと、決して忘れません。こんなにもゼミ生思いの指導教授のもと、2 年間も過ごすことができた私たちは、本当に幸せ者です。心から感謝します。本当にありがとうございました。これから私たちは、社会人として新たな大海原へと出発します。小野先生からご教授いただいたこと、そして小野ゼミでの様々な経験を活かし、社会に貢献していけるよう、第 21 期生一同、尽力して参ります。

2025 年 2 月吉日